



テーマは「農林業センサス結果からみた農業経営体等の動き（宮城県）」

— 2025年農林業センサス結果（概数値）（令和7年2月1日現在） —



市町村別にみた農業経営体数の減少割合(宮城県)

2025年農林業センサス結果（以下「25センサス」という。）における、宮城県内の農業経営体数は、2万3,762経営体となり、2020年農林業センサス（以下「20センサス」という。）の3万5経営体から、6,243経営体（20.8%）減少しました。

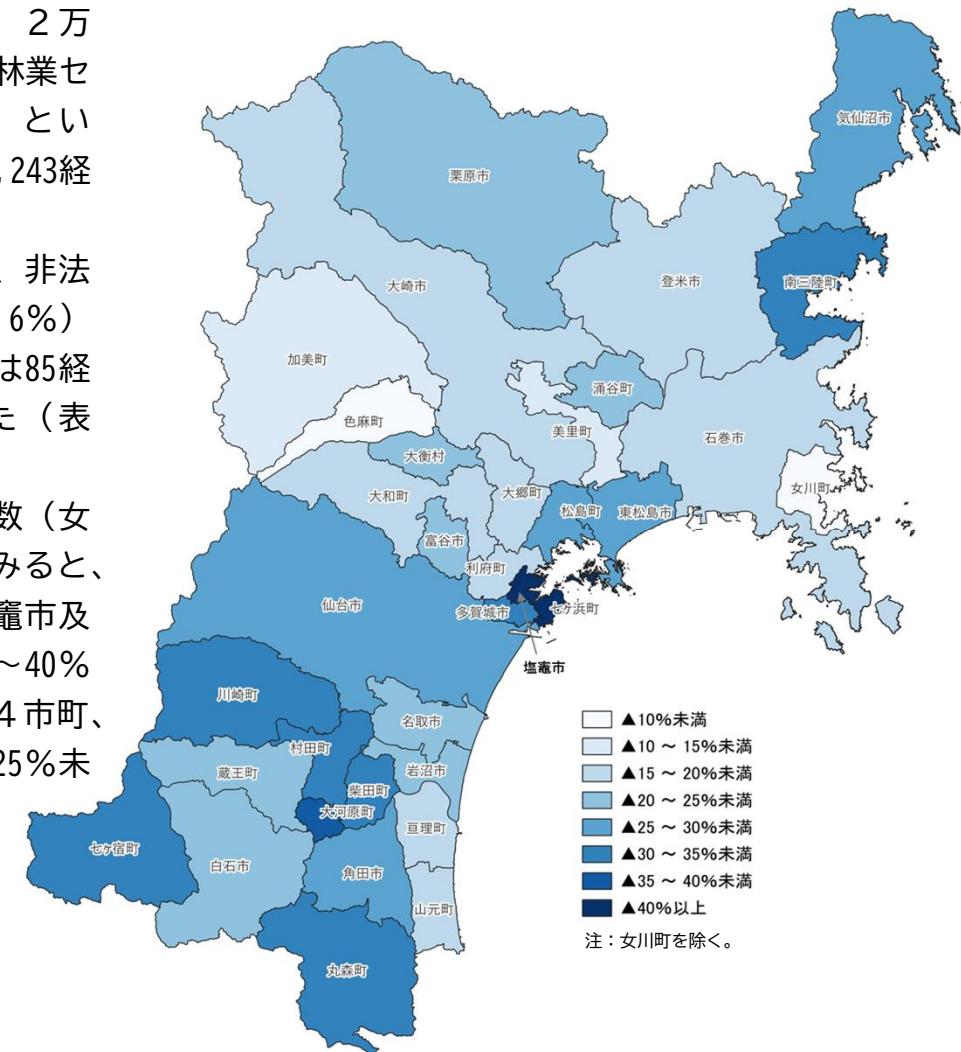
組織形態別の増減をみると、非法人経営体数は6,328経営体（21.6%）減少する一方で、法人経営体は85経営体（12.4%）増加しました（表1）。

また、市町村別農業経営体数（女川町を除く。）の減少割合をみると、40%以上減少しているのが塩竈市及び七ヶ浜町の2市町、以下35～40%未満が1町、30～35%未満が4市町、25～30%未満が5市町、20～25%未満が10市町村、15～20%未満が9市町、10～15%未満が2町、10%未満が1町となっています（図1）。

宮城県拠点の
Webサイトは
こちら →



図1 市町村別農業経営体数の減少割合（宮城県）



資料：「農林業センサス（各年2月1日現在）」を基に作成（以下図3まで同じ。）

表1 農林業センサスにおける組織形態別農業経営体数の推移（宮城県）

単位：経営体

区分	農業経営体					地方公共団体・財産区
	計	法人経営体	非法人経営体	個人経営体		
2020年	30,005	688	29,315	28,714		2
2025年	23,762	773	22,987	22,517		2
差	▲ 6,243	85	▲ 6,328	▲ 6,197		0
増減割合(%)	▲ 20.8	12.4	▲ 21.6	▲ 21.6		0.0

資料：「農林業センサス（各年2月1日現在）」を基に作成



基幹的農業従事者の動き(宮城県)

宮城県内の基幹的農業従事者^注は減少傾向が続いており、25センサスは2万5,730人と、20センサスの3万2,818人と比べて7,088人(21.6%)減少しました。10年前の2015年農林業センサスの4万1,791人と比べると1万6,061人(38.4%)減少しました(図2)。

また、農林業センサスは5年ごとの調査で、年齢階層も5歳単位であることから、例えば20センサスに20~24歳の階層に属する基幹的農業従事者は、25センサスには25~29歳の階層に属することとなります。

これを踏まえて、25センサスの年齢階層別基幹的農業従事者数を、20センサスの5歳若い階層と比較すると、70歳以上の階層で減少する一方で、69歳以下の各階層では増加となりました。

このうち、25センサスの20~49歳層(20センサス時点の15~44歳層)の動向をみると、2,002人から2,568人と566人増加、60~69歳層(同55~64歳層)は5,550人から6,327人と777人増加しました。一方、人数の多い70歳以上の階層の減少率が高くなっています(図3)。

注:個人経営体における15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者をいう。

図2 基幹的農業従事者数の推移(宮城県)

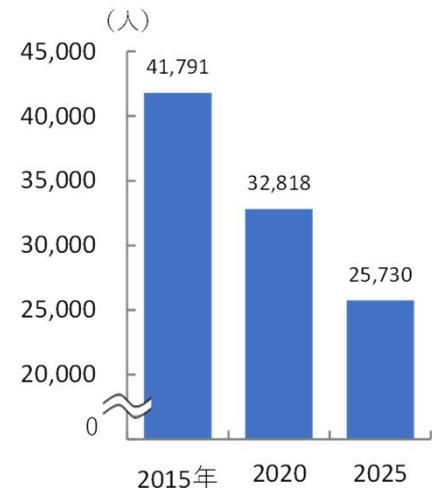
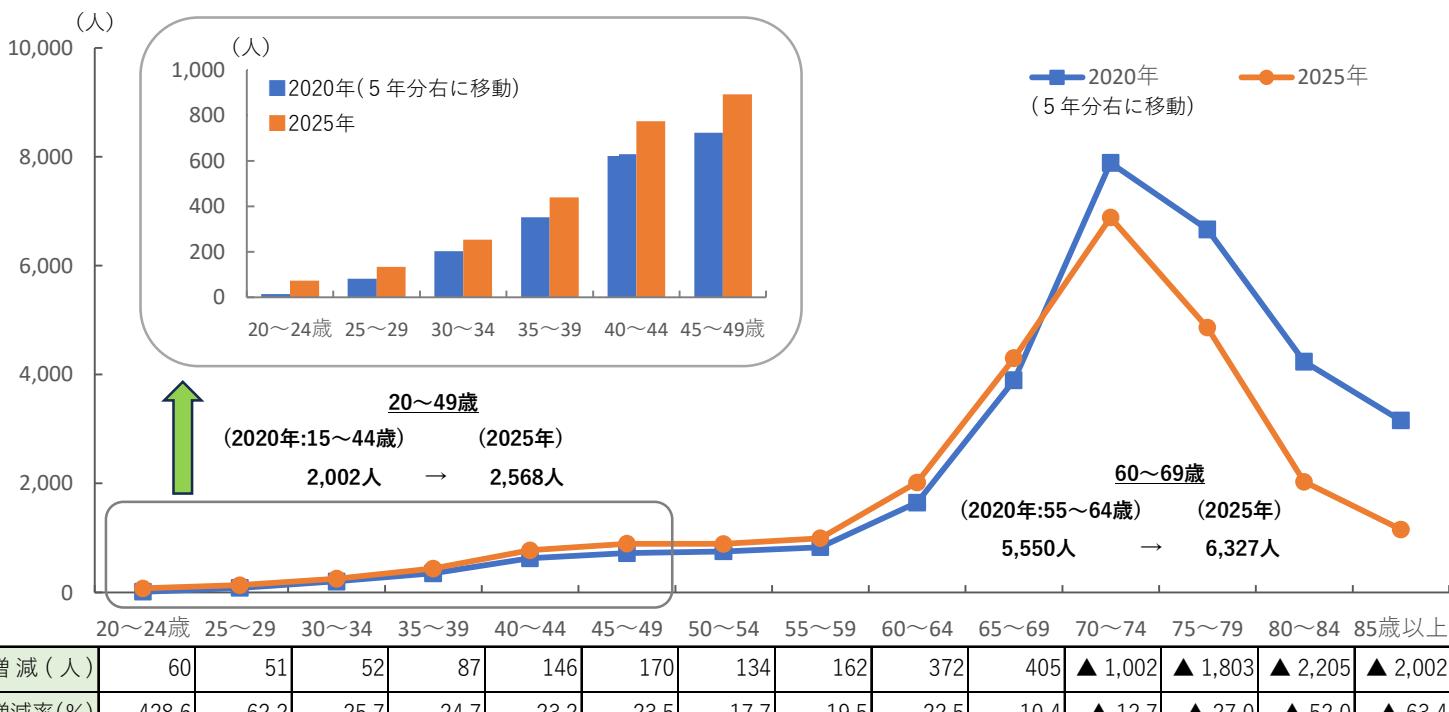


図3 年齢階層別基幹的農業従事者数の増減(宮城県)



注:20センサスのグラフを1階層(5年分)右に移動して25センサスの同じ世代の階層と増減比較

2025年農林業センサス結果の概要(東北)(概数値)(令和7年2月1日現在)については、こちらからご覧いただけます。

東北農政局ホームページ
→<https://www.maff.go.jp/tohoku/stinfo/kekka/attach/pdf/index-78.pdf>

